

活動レポート

青年技術士交流委員会

文責：青年技術士交流委員会 副委員長 平岡城栄

講演会・ワークショップ

人とつながるしくみを学ぶ ～技術士×コミュニティデザイン～

青年技術士交流委員会では、日本で初めての職業と言われるコミュニティデザイナー：山崎亮さん(株 studio-L 代表)を講師としてお招きし、講演会、ワークショップ(以下WS)を開催しました。以下に開催概要を報告します。

1. 講演会・ワークショップの概要

- 日時：平成30年8月30日 16時～19時
- 講演会：人とつながるしくみを学ぶ
- WS：技術士・技術者のミライを考える
- 場所：TKP 札幌ビジネスセンター赤れんが前
- 参加者 会員/準会員/学生：42名
一般/非会員：29名 合計：71名

2. 講演会

講演会では、コミュニティデザインの仕事内容について、山崎さんがこれまで手がけてきた技術者向けの事例を紹介、解説していただきました。山崎さんの技術者としての視点からの考察も加えながら、受講者にとって楽しく、かつ分かりやすく、ご講演いただきました(写真-1)。



写真-1 山崎亮さんによる講演

コミュニティデザインの現場では、人とのつながりや関係の良否が成果に大きく影響することを学ぶ

ことができました。当たり前のことかもしれませんが、社会生活、社会活動におけるコミュニケーションの大切さについて、改めて認識することができました。

講演会を通し、人のつながり、コミュニティの大切さ、活動を楽しく続けることの大切さなどについて学ぶことができ、技術士・技術者として新たな気づきがたくさんありました。また、技術士・技術者が活動するうえで大切にしなければいけないことや、より良く社会とつながる方法などを学び、ミライの技術士・技術者の可能性を考えることができました。

3. ワークショップ(WS)

講演会終了後、有志の受講者を対象にWSを開催しました。テーマは、技術士・技術者のミライを考える新たな取り組み(企画)を考えることでした。

各班8名程度の計6班でテーマについて話し合いました(写真-2)。話し合う際は、山崎亮さんの著書「ふるさとを元気にする仕事」に記載されている「企画を構成する要素図」を参考に、技術士・技術者の視点で「何をしてみたいか、何ができるか、社会から何を求められているか」の3要素について意見を



写真-2 楽しく盛況だったワークショップ

出し合い、3つの輪が重なる企画・活動を班ごとに考えました(図-1)。

WS 中盤で、山崎さんから「バックキャストिंग」の考

え方を学びました。現状から問題を見つけ、解決方法を探る「フォアキャストिंग」に対し、「バックキャストिंग」は、描く未来・ビジョン(夢)を設定し、それを実現するためのアクションプランを考え、実行することにより、大きな変化が期待できる考え方です(写真-3)。この学びにより、各班の企画が格段に変化・発展したように感じました。

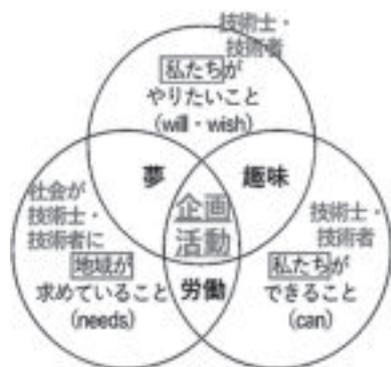


図-1 未来を描く3つの輪



写真-3 バックキャストिंगの考え方

最後に、各班の企画案について、情報共有しました(写真-4)。「AIで質問に答える技術士キャラクター」「技術士が案内する北海道観光」「まちの駅」「技術士の仕事紹介本の作成(マンガ風)」「多世代が交流できる場の創出」「技術士どうでしょう(テレビ番



写真-4 企画発表・情報共有

組)」など、夢がある楽しそうな企画ばかりでした。

WS 終了時に、仕事と地域づくり等の活動の違いについて、山崎さんにご教示いただきました(写真-5)。「仕事は、対価があって成立する。地域づくりなどは、対価がなくとも、みんなで楽しく意見を出し合い、形成する。参加する人たちが楽しいこと、楽しむことが重要である。」青年技術士交流委員会の活動も、参加する幹事が楽しむこと、楽しむ環境づくりがとても重要であることを学びました。



写真-5 仕事と地域づくり等の活動の違い

4. 終わりに

この度の講演会とWSでの学びを活かし、青年技術士交流委員会では、幹事や活動に参加する方々が楽しく活動できる機会と、活動の場を創出し、技術研鑽に努めたいと思います。それが社会により良い影響を与え、技術士の知名度向上と社会貢献へとつながると思いました。

それから、山崎亮さんが師匠と仰ぐ、19世紀イギリス・ビクトリア時代を代表する評論家・美術評論家のジョン・ラスキン氏のとても素敵な言葉がありますのでご紹介します。「最も裕福な人間とは、自分自身の人生の機能を最大限にまで高め、その人格と所有物の両方によって、他者の人生に最も広範で有用な影響力を及ぼす人のことなのである。」われわれ青年技術士交流委員会や技術士も、そのような組織・技術者でありたいと思いました。

最後に、ご講演、WSへのご参加を快諾いただきました山崎亮さん、および筆者の夢の企画実現に向けて協力いただいた青年技術士交流委員会の幹事のみなさんに御礼申し上げます。